いいで

学校便り　第5号

喜多方市立山都小学校　平成２７年６月２５日（木）

文責　校長　菊地　誠

挨拶（あいさつ）は，心を開いて相手に近づくこと

先日（６／２３）の全校集会では，「挨拶（あいさつ）」の話をしました。挨拶は人と人の心をつなぐ不思議なパワーを持っています。そして，人を幸せにする魔法の言葉です。その思いを子どもたちに伝えようと次のような話をしました。

（「挨拶」の漢字を提示して）この漢字は何と読みますか？読める人はいますか？
この漢字は「挨拶（あいさつ）」と読みます。あいさつって知ってますよね。「おはよう」「こんにちは」「ありがとうございます」「いただきます」などの言葉です。

「挨拶」という漢字は，もともと仏教の禅宗の言葉からきています。禅宗では「挨」も「拶」も「押し合う」という意味があるそうです。また「挨」は「開く」，「拶」は「迫る」という意味があります。つまり「挨拶」という漢字の意味は「心を開いて相手に近づく」ということなんだそうです。

みなさんの中には，「あいさつはちょっと恥ずかしいな」とか「相手の人があいさつしてきたら自分も言おう」などと思っている人もいると思います。校長先生は毎日，昇降口や支所の前でみなさんに「おはようございます」とあいさつをしています。校長先生より早く「おはようございます」と元気に自分からあいさつをする人もいれば，うつむいて通り過ぎていく人もいます。

あいさつは「慣れ」です。あいさつをすることが特別なことでなく，自然に当たり前にできるようになることが大切です。始業式に話をした３つの約束をおぼえていますか？そのうちの１つが「あいさつ名人になろう」でしたね。

この間行われた防犯教室で，おまわりさんが，いざというときに大きな声が出せるよう普段から元気なあいさつをすることが大切だと言っていました。あいさつは，「いつでも，どこでも，誰にでも」できるようになるといいなあと思っています。また，自分の家のお父さんやお母さん，おじいさん，おばあさんだけでなく，近くに住んでいるおじさんやおばさんにも，スクールバスの運転手さんにも，あいさつができるようになってください。あいさつは人と人の心をつなぐ魔法の言葉です。あいさつは簡単なものですが実はとても大切なもので，みんなを幸せにしてくれるパワーを持っています。山都小のみんなも，早く「あいさつ名人」になって，幸せになってほしいと思います。

小さいときからあいさつを習慣化して，あいさつが特別なことでなく，自然にできる子になってほしいと思います。ご家庭でもあいさつについて話し合ってみてください。

秋田県へ視察に行ってきました。

６月１６日（火）～１７日（水）の二日間「山都のつなぐ教育」の事業として，小中合同で秋田県大仙市の角間川小学校と大曲南中学校へ視察に行ってきました。秋田県はご存じのとおり，全国学力状況調査で全国トップの県です。どちらの学校も特別な研究校でもなく，山都小中と同規模の学校です。小学１年生から中学３年生まで全部の学年の授業を参観させていただきました。授業を参観して一番感じたことは学習規律が確立しているということです。学習の準備（机の上には，余計なものは置かない），話し方や聞き方，姿勢がどの学年もしっかりとしています。そして，小学校１年生から全員が自主学習を毎日やっています。「当たり前のことを当たり前にやる」まさに９年間の「一事徹底」が学力の向上につながっているのだと感じました。子どもたちも今，自主学習に取り組んでいるところです。子どもたちのノートにご家庭でも一筆入れていただければ，励みになると思います

＜音読する１年生＞